

なぜ「コピュラ文」と「存在文」が談話主題を導入する際に用いられるか

—名詞句の指示性の観点から—

ニアムチャラン・ニーラチャー 東北大学大学院生

1. はじめに

談話主題である要素を談話に導入する際、使用される表現が限られる。英語では There 構文がその際に用いられる表現である (Lambrecht 1994)。日本語の場合は談話主題が新たに導入される際に、(1) と (2) のように、コピュラ文「A は／が B だ」と存在文「(A に) B がある／いる」が頻繁に用いられると指摘されている (砂川 1995a) ¹。

- (1) ニホンザルの文化行動で世界的に有名なのは、幸島の芋洗いや麦洗いである。幸島で、一九五三年に、一歳半の子ザルがさつま芋を洗って食べるという奇妙な行動が見つかった。この行動は、遊び仲間、兄弟、母親へと伝わり、次第にほかのサルにも伝播した。 〈コピュラ文〉 (河合雅雄「動物の文化的行動」光村図書出版) ²
- (2) ヒノキでつくられた代表的な建築に、伊勢神宮と法隆寺があります。特に法隆寺の金堂や五重の塔は、約千三百年前に建立され、当時の姿をそのまま現在に伝えるもので、世界最古の木造建築として有名です。

〈存在文〉 (小原二郎「法隆寺を支えた木」光村図書出版)

談話主題 (Discourse Topic) とはある部分の談話において「何について語っているか」という問いに対する回答を指すものである (砂川 2005)。談話主題は文の主題と異なり、要素の継続性を問題とする。そして、要素の繰り返しや同一指示表現の出現から客観的に認定できる (Givón 1983、Todd 2016)。上記の (1) と (2) では「幸島の芋洗いや麦洗い」「法隆寺」の要素が繰り返して言及されているため、それぞれに関することが語られていると捉えられる。すなわち、これらの要素は談話主題である³。これらが初めて現れた際にコピュラ文と存在文が用いられている。

¹ 本研究の「A」と「B」は前置要素と後置要素を指す。ただし、それらの要素は文により性質が異なる。コピュラ文では主語名詞句・述語名詞句、存在文では存在領域・主語名詞句を表す。

² 該当文を _____ で示し、その文の種類を 〈 〉 の中に記す。また、 の中は談話主題を、_____ はその談話主題の同一指示表現を、「／」は原文における段落の切れ目を表す。

³ 談話主題にはより大きい主題 (例 1 の「ニホンザル」) とより小さい主題 (例 1 の「幸島の芋洗いや麦洗い」) が存在する。特定の部分に 1 つ以上の談話主題が出現し、同時に展開することが可能である。ただし、本研究ではコピュラ文と存在文で導入される談話主題のみを対象とする。

コピュラ文と存在文は主題を導入する機能を持つとされる（砂川 2005、ニアムチャラソン 2023 など）。しかし、なぜこれらが共通してこの機能を持つのかは十分に検討されていない。主題導入はどのようなプロセスを有するかについても課題である。これらの構文の共通点やこの機能を有する原因を解明することは主題導入の仕組みの明確化につながるため、検討する意義がある。

文法研究において、コピュラ文と存在文に出現する名詞句は、同様の指示性・非指示性を持つ場合がある（西山 2003）。次節で詳細に説明するが、いずれの文も非指示的名詞句の一種である「変項名詞句」が出現できる。変項名詞句を有するコピュラ文と存在文は談話主題を導入する際に頻繁に用いられると指摘されている（ニアムチャラソン 2023、印刷中）ため、この種類の名詞句は主題導入機能に関わると予測している。

本研究では、コピュラ文と存在文の構文が共通して談話主題を導入する機能を持つ要因を、指示性・非指示性という名詞句の意味論的な観点で分析することを目的とする。特に変項名詞句の場合に着目し、これらの文に出現する変項名詞句はどのように主題導入機能に関連するかについて論じる。

2. コピュラ文と存在文の規定と名詞句の指示性による分類

本研究で扱うコピュラ文と存在文の規定や分類は主に上林（1988）や西山の一連の研究（2003、2007、2013 など）に基づく。これらを次のように整理する。

コピュラ文には「措定」の用法と「指定」の用法とがある。前者は（3a）のように「A についていえば、それは B という性質を持つ」という意味関係を持ち、後者は（3b）のように「A をさがせば、それは B だ」という意味関係を持つ⁴。後者である指定文は助詞「が」を伴う場合が存在する。「が」を伴う場合は A 項と B 項の位置が入れ替え可能である。

(3) a. 措定文 例：五嶋みどりはヴァイオリニストだ。

A = 指示的名詞句、B = 非指示的名詞句（叙述名詞句）

b. 指定文 例：花子殺しの犯人はあの男だ。（あの男が花子殺しの犯人だ。）

A = 非指示的名詞句（変項名詞句）、B = 指示的名詞句、変項名詞句（値）

（例文は西山 2003 より）

措定文と指定文では名詞句の指示性が異なる。名詞句の指示性とは特定の文における名詞句が「(具体的対象であれ抽象的对象であれ) 世界の中の対象を指示する」目的で用いられるか否かを指す（西山 2007：5）。ある対象を指すために用いられる場合は「指示的名詞句」（例 3 の二重線部）、そうではない場合は「非指示的名詞句」（例 3 の波線部）である。非指示的名詞句はさらに「叙述名詞句」と「変項名詞句」に分けられる。叙述名詞句は特

⁴ 「ジキル博士はハイド氏だ（西山 2003）」のように、A と B の対象が同一である場合がある。しかし、どの用法に属するかは議論の余地があるため、この場合を対象としない。

定の対象の属性・性質を表す名詞句であり、措定文の述語として現れる。変項名詞句は変項 x が含まれる命題関数を表す名詞句である。たとえば、(3b) の A 項は「 x が花子殺しの犯人である」という意味を持つ変項名詞句であり、意味的な面では充足されていない変項 x を有する。そして、B 項として出現する名詞句はその変項 x を満たす「値」である。すなわち、(3b) の文全体の意味構造は以下の通りである。

(4) 「 x が花子殺しの犯人である」における変項 x を満たす値はあの男だ。

もともと名詞句の指示性はコンピュータ文を分類するために用いられる概念だが、存在文とあった構文の分析にも採用できる。西山 (2003、2013) はこの指示性の概念に基づいた存在文の分類を提案している。しかし、その分類は所在文と所有文も含まれている。その提案では指示性以外の要因も分類に使用されている。本研究の存在文は、所有の意味を持たない「(A に) B がある／いる」の形を持つ文に限定する。名詞句の指示性の違いにより、(5) のように存在文を大きく 3 つの種類に分ける。

(5) A 類 例：机の上にバナナがある。

A = 指示的名詞句、B = 指示的名詞句

B 類 例：このクラスに、花子よりも数学ができる生徒がいる。

A = 指示的名詞句、B = 非指示的名詞句 (変項名詞句)

C 類 例：ヒノキでつくられた代表的な建築に、伊勢神宮と法隆寺がある。

A = 非指示的名詞句 (変項名詞句)、B = 指示的名詞句 (値)

(A 類と B 類の例文は西山 2013 より)

B 類と C 類は変項名詞句を有し、それぞれ (6) のような意味構造を持つ。B 類は変項名詞句における変項 x を埋める値が存在することを言及するが、その値は何かを問題としない。一方、C 類は変項 x を埋める値も示し、指定文に類似した構造を持つ。

(6) B 類 「 x が花子よりも数学ができる生徒である」の変項 x を満たす値が存在する。

C 類 「 x がヒノキでつくられた代表的な建築である」の変項 x を満たす値として、伊勢神宮と法隆寺が存在する。

以上、コンピュータ文と存在文の規定や分類を説明した。本研究では変項名詞句と主題導入機能の関係を明らかにすることを目的としているため、変項名詞句を持つ「指定文」と「B 類・C 類の存在文」のみを対象とする。

3. 主題導入機能に関する先行研究と主題導入の用法の有無について

従来、主題導入機能に関する概念はコンピュータ文 (分裂文も含む) の談話機能を検討する際にあげられ、指定文はこの機能をもつと指摘されている (砂川 2005、栗原 2007、伊藤 2010 など)。主題導入機能の明確化を試みる研究には、ニアムチャラーン (2023、印刷中) がある。ニアムチャラーン (印刷中) は措定文がこの機能を持たないことを検証し、指示的名詞句・非指示的名詞句の出現の違いが措定文と指定文の異なる機能につながることを

述べている。また、ニアムチャラーン（2023）は存在文を対象にし、この文の主題導入機能を名詞句が持つ指示性の観点で分析している。存在文ではどの種類も主題導入機能を有するが、B 項の指示性により主題導入の仕方が異なると指摘している。本研究では指定文と存在文が共通して主題導入機能を持つ原因について検討する。

分析を行う前に、主題導入という用法について説明する。1 節で述べたように談話主題は継続性があり、要素の連続的出現から判断できる。本研究は「格を問わずある部分で 2 節以上言及されている要素」を談話主題とみなす。談話主題が導入された際に用いられる文は主題導入の用法を持つ文とする。すなわち、「主題導入の用法を持つ」と言及する場合は、該当の用例には①初出の要素（あるいは、しばらく言及されていない既出の要素）が出現し、②その要素（または、その一部）の反復語や同一指示表現が後続文に出現することである。ここでの「同一指示表現」は同義語・省略語・代名詞のほか、パラフレーズ、詳述、解釈も含まれる砂川（1995b）の広義の同一指示表現を指す。

なお、前述したように本研究では変項名詞句を持つ文のみを対象とするため、以降で用いる「コピュラ文」は指定文、「存在文」は B 類と C 類の存在文を指す。

4. 分析対象

本研究は、中学生の教科書における説明文（30 テクスト、約 2,360 文）に出現した、コピュラ文「A（の）は／（の）が B だ」と存在文「（A に）B がある／いる」の用例を収集し、変項名詞句を有する場合のみを抽出して分析対象とした⁵。変項名詞句を有する存在文では助詞「も」が多用されているため、本研究は助詞「も」を伴う場合も対象とした。

また、変項名詞句を次のように判断する。前述したように、変項名詞句はある対象・概念を指示しない [... x ...] という変数をもつ名詞句である。すなわち、変項名詞句である要素は指示的な性質を持つ表現に言い換えることができない。また、[x が…である] の形で表現でき、その変項 x を満たす値が想定できるのである。指定文では「指定する」と「指定される」ための名詞句を持ち、「指定される」方は変項名詞句に当てはまる⁶。存在文の場合はニアムチャラーン（2023）の判断を参考にした。つまり、抽象的名詞句（「言えること」や「謎」など）は変項名詞句とみなす。連体修飾節を有する名詞句は値になり得る要素で言い換え可能でなければ、変項名詞句とみなす。曖昧な場合は文の意味から判断し、

⁵ 他の要因が機能の分析に影響することを避けるため、文末にモダリティを表す表現があるもの、従属節・連体修飾節の中に現れたもの、否定的・疑問的な意味を持つもの、会話の文に現れたものは分析対象としない。

⁶ 従来、変項名詞句を有するコピュラ文は西山（2003）の狭義の「指定文」と「倒置指定文」に限定されている。しかし、本研究では指定の意味を持つ文はいずれも変項名詞句を有するとする。

判断不可能な場合は対象としない。分析対象となった用例は、コピュラ文が 120 例、存在文が 29 例あった⁷。

5. 結果と考察

5.1 節ではそれぞれの用例における変項名詞句がどのように後続するかを見る。5.2 節では主題導入の際に用いられる場合に着目し、変項名詞句と主題導入機能の関係を分析する。

5.1. 変項名詞句の後続の仕方

コピュラ文と存在文における変項名詞句の後続の仕方を以下の表 1 にまとめる。変項名詞句の出現後にその変項 x を埋める値が割り当てられるか否かは後続の仕方に関わる。このため、《値が出現する場合》《値が出現しない場合》に分類する。また、《値が出現する場合》はその値が後続するか否か (a・b)、《値が出現しない場合》はその変項名詞句自体が後続するか否か (c・d) のように細分化する。ただし、コピュラ文はある変項名詞句の値を指定するための文であるため、《値が出現する場合》にしか出現しない。

表 1 変項名詞句の後続の仕方とそれぞれの用例数 (%)

		コピュラ文	存在文
値が出現する場合	a. 値の後続あり	81 (67.50)	14 (48.28)
	b. 値の後続なし	39 (32.50)	2 (6.90)
値が出現しない場合	c. 変項名詞句の後続あり		7 (24.14)
	d. 変項名詞句の後続なし		6 (20.69)
合計		120 (100)	29 (100)

表 1 より、いずれの文も《値が出現する場合》の「a. 値の後続あり」が最も多かった。コピュラ文の a・b を基準に比較し、存在文の a・b では同様の傾向が見られる。しかし、存在文の c・d ではそのような傾向が見られなかった。すなわち、変項名詞句の使用後に値が出現すれば、その値が後続する傾向である。一方、存在文の場合のように、値が出現しない場合は要素の後続あり・なしには関係がないとわかる。

以上より、コピュラ文と存在文は共に、変項名詞句の後に値が出現した場合はその値が後続する傾向が高かった。値の後続がある場合は多くが主題を導入するために用いられている (コピュラ文 81 例中 76 例、存在文 14 例中 14 例)。しかし、「c. 変項名詞句の後続あり」で見たように、値が出現しない場合でも変項名詞句自体が後続することも少なくない。これは (7) のような場合である。

⁷ コピュラ文では指定文が 120、措定文が 125 あった。存在文では A 類が 15 例、B 類が 27 例、C 類が 2 例あった。

- (7) もちろん、自分かってな欲望が満たされないからといって、自分を不幸だと考えているような人もある。また、つまらない「みえ」にこだわって、いろいろ苦労している人もある。しかし、こういう人たちの苦しみや不幸は、実は、自分かってな欲望をいだいたり、つまらない虚栄心が捨てられなかったりすることから起きているのであって、そういう欲望や虚栄心を捨てれば、それと同時になくなるものなのだ。　　〈存在文〉(吉野源三郎「人間の悩みとあやまち」光村図書出版)

この場合の多くは存在文、あるいは、存在の意味を持つ文が2文以上並んでいる。また、複数の要素をまとめた表現(「こういう人たち」「それら」など)が後続する。このため、「c. 変項名詞句の後続あり」に属する用例は主題導入ではなく、他の要素の具体例を提示する目的で用いられていると考えられる。よって、基本的に主題導入の用法を持つのは「a. 値の後続あり」の場合のみである。次節ではこの場合に着目して分析する。

5.2. 変項名詞句と主題導入機能の関係

本節では主題導入の用法をもつコピュラ文(76例)と存在文(14例)に着目し、変項名詞句と主題導入機能の関係について考察する。まず、コピュラ文の場合の例を挙げる。(以下、波線部は変項名詞句を、□の中の要素はその値を指す。)

- (8) 少し前のことになるが、十年前に書かれた手紙が届いたという記事を新聞で読み、深く印象に残った。差出人は、岩手県大槌町の臨時職員だった若い女性である。過去形で書いたのは彼女が退職したからではない。東日本大震災で亡くなっているからだ。(1文略)／町の職員になる以前に彼女は、バスガイドとして働いていた時期があり、その仕事で愛知県にある「明治村」という博物館に行った。

〈コピュラ文〉(若松英輔「手紙の効用」東京書籍)

(8)のコピュラ文では「xが(十年前に書かれた手紙の)差出人である」という意味を持つ変項名詞句がA項として用いられ、B項である「若い女性」がその変項xを満たす値である。この値の要素は何節にもわたって言及されているため、談話主題だと捉えられる。つまり、談話主題が「値」として導入されている。主題導入の用法を持つ文はこのように、談話主題が前に出現した変項名詞句の値として導入される。1節の(2)で挙げたC類の存在文も(8)と同じ形で主題が導入される。一方、B類の存在文は(9)のように、変項名詞句のみが存在文に出現し、その値が後続文に出現する。

- (9) 走ることは、喜びそのものであるようにも思える。／しかし、この喜びを味わいにくい人もいる。例えば義足の人々がそうだ。義足の使用者は全国におよそ六万人。彼らの多くは、義足を使いこなして、ほとんど不自由のない日々を送っている。

〈存在文〉(佐藤次郎「風を受けて走れ」東京書籍)

この種類の存在文の値は動詞文や疑問文など様々な文として出現可能だが、多くの場合は(9)のようにコピュラ文として出現する。この例のように、談話主題が後続文にある値

として導入されることから、B類の存在文は主題導入に関する予測を誘発するために用いられると指摘されている（ニアムチャーン 2023）。B類の存在文における変項名詞句を通して主題導入を予測させてから、次の文に現れる値として主題を導入する方法だといえる。すなわち、書き手が「主題導入の誘発→主題導入」の過程を踏んで主題を導入する。この過程により読み手がその要素の後続を予測でき、その要素が注目されやすくなるためと考えられる。コピュラ文とC類の存在文も変項名詞句と値による「主題導入の誘発→主題導入」の過程を有するが、文中でこの過程を終えるという違いがある。

以上より、変項名詞句と値の連続的出現は「主題導入の誘発→主題導入」の過程を表す。コピュラ文と存在文はこれらの出現を許す表現であるため、この2つの構文が共通して主題導入機能を持つと考えられる。しかし、本研究での分析はコピュラ文と存在文に限定したため、主題導入機能の有無はコピュラ文と存在文にあるのか、あるいは、変項名詞句と値の出現にあるのかは未だ議論の余地がある。ただし、(10)のように、コピュラ文と存在文以外の文にも変項名詞句に連続した値の出現と、値の主題としての後続も観察された。

- (10) だが、ほかにも原因が考えられる。それは、植物の切片が呼吸をしているため、シリンドーの中の酸素が不足するのではないかということである。.....を調べるため、植物を入れたシリンドー内の網の上に、脱臭作用をもつ活性炭をガーゼに包んでのせておいた。
- （岩波洋造「植物のにおい」光村図書出版）

他の文の場合は更なる検討が必要である。しかし、変項名詞句と値の連続的出現は他の文にも見られ、それらの文も主題導入機能を持つということは、変項名詞句と値の利用が主題導入機能に影響する証拠の一つである。よって、コピュラ文と存在文が同様に主題導入機能を持つ原因は、変項名詞句と値の連続的出現にもあるといえる。

6. おわりに

本研究では、変項名詞句と値が連続的に出現可能なことがコピュラ文と存在文が共に主題導入機能を持つことに影響があることを論じた。変項名詞句による「主題導入の誘発」の過程を踏み、その値として「主題導入」を行うために書き手がコピュラ文と存在文を選択する。変項名詞句と値の連続的出現は不十分な情報を補充することの反映であり、変項名詞句による「主題導入の誘発」の機能やその効果は名詞句における意味的な不十分性が関連すると予測できる。今後は不十分性と主題導入機能との関連について調べる。

また、同様に主題導入機能を持つが、存在文は主題導入を誘発するのみでも使用可能であるのに対し、コピュラ文は主題を導入することが主な役割であるといった相違点がある。それぞれの文の使用による効果も異なると考えているが、検討が不十分である。さらに、今回対象としないA類の存在文による主題導入の位置付けはまだ課題である。今後はこれらの点も明らかにする予定である。

調査資料・用例出典

『光村ライブラリー・中学校編 第四巻 フシダカバチの秘密 ほか』（光村図書出版，2007）／『新しい国語 1』～『新しい国語 3』（東京書籍，2020）／『中学生の国語 一年』～『中学生の国語 三年』（三省堂，2011）

参考文献

伊藤晃（2010）『談話と構文』大学教育出版

栗原さよ子（2007）「文章におけるコンピュータ文の機能－「おすすめなのはワインです」と「おすすめなのがワインです」－」『学習院大学大学院日本語日本文学』3，pp.61-41.

砂川有里子（1995a）「語順と特立提示機能に関する試論－新規項目の導入形式を手がかりとして－」『第4回小出記念日本語教育研究会論文集』，pp.99-112.

砂川有里子（1995b）「日本語における分裂文の機能と語順の原理」仁田義雄編『複文の研究（下）』，pp.353-388. くろしお出版

砂川有里子（2005）『文法と談話の接点－日本語の談話における主題展開機能の研究－』くろしお出版

ニアムチャラーン・ニーラチャー（2023）「存在文における名詞句の指示性と主題導入機能」『日本語文法』23（1），pp.155-171. くろしお出版

ニアムチャラーン・ニーラチャー（印刷中）「コンピュータ文における主題導入機能－名詞句の指示性の観点からの分析－」『文化=Culture』87（1・2），東北大学文学会

西山佑司（2003）『日本語名詞句の意味論と語用論－指示的名詞句と非指示的名詞句－』ひつじ書房

西山佑司（2007）「名詞句の意味機能について」『日本語文法』7（2），pp.3-19. くろしお出版

西山佑司（2013）「第11章 名詞句の意味機能から見た存在文の多様性」西山佑司編『名詞句の世界－その意味と解釈の神秘に迫る－』ひつじ書房

Givón, T. (1983) Topic continuity in discourse: An introduction. In T. Givón et al. eds, *Topic continuity in discourse: A quantitative cross-language study*. pp.3-41. Amsterdam: John Benjamins.

Lambrecht, K. (1994) *Information structure and sentence form: Topics, focus, and the mental representations of discourse referents*. Cambridge: Cambridge University Press.

Todd, R. W. (2016) *Discourse Topics*. Amsterdam: John Benjamins.